

株式会社 シンシア

環境活動報告書

2025

サステナブルな未来へ、 「誠実」に向き合っていくシンシアの環境方針

1. 産業資源の適正処理・再資源化及び環境の美化を推進します。
2. 関連法令、地域社会との協定を順守し、環境汚染の未然防止に努めます。
3. 事業環境の変化に応じて活動目標を設定し、環境パフォーマンスの向上を目指します。
環境管理システムを継続的に改善し環境負荷を低減します。
4. 省資源・省エネルギー及び温室効果ガス排出削減を推進し、持続可能な社会の構築に貢献します。
5. 品川事業所、横浜事業所及び本社で働く一人ひとりが環境に対する意識の向上に努めます。
6. この環境方針は、一般にも公開します。

2025年1月1日

株式会社シンシア

環境管理総括責任者 齋藤 正彦

Contents

- | | |
|---------------------------|-----------------------|
| ① ごあいさつ | ⑧ 各サイトの活動目標と実績 |
| ② シンシアの事業概要 | ⑨ 主要な環境パフォーマンス指標 |
| ③ シンシア品川R・Cセンター | ⑩ 資格の取得 |
| ④ シンシア横浜R・Cセンター | ⑪ 緊急事態対応訓練 |
| ⑤ シンシア品川リサイクルセンター | ⑫ 環境教育 |
| ⑥ インプット・アウトプット（2024年度実績値） | ⑬ ステークホルダーとのコミュニケーション |
| ⑦ 環境管理組織 | |



2025年8月
環境管理総括責任者
齋藤 正彦

平素は当社事業にご理解・ご支援を賜り誠にありがとうございます。「環境活動報告書2025」をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

当社は、「自然との共生」を企業理念とし、①R・C＝資源循環事業、②リサイクル事業、③環境整備／ビルメンテナンス事業、④コンサルティング事業の4つの事業において、お客様のニーズに的確なソリューションを提供致しております。

2024年度は、資源価格の変動や電力料金の高騰などにより、廃棄物処理業界にとって引き続き厳しい事業環境が続く一方で、資源循環や環境負荷低減に対する社会的な要請がますます強まる一年でもありました。また、地球温暖化の進行に伴う豪雨や猛暑などの災害が日常化し、環境リスクへの備えが一層重要となっています。

こうした中、脱炭素社会の実現に向けた社会全体の関心と期待は高まりを見せており、企業にはより持続可能な事業運営が求められています。

当社においても、単なる適正処理にとどまらず、焼却廃熱による発電やリサイクルルートの拡大、省資源の推進に取り組んでまいりました。お客様の廃棄物ができるだけ再資源化されるよう、最適な提案に努めております。

当社は2023年秋に株式会社レナタス設立当初からグループ会社の一員として参画し、グループ会社間のネットワークやノウハウを活かした、より高度な環境サービスを展開しています。

本報告書（環境活動報告書2025）では、主に2024年度における当社の環境への取り組みについてご報告いたします。なお、当社の会計年度変更に伴い、2024年度のEMS活動は4月から12月までの9か月間となっております。本報告書の各種数値は、この9か月間の実績に基づいています。ぜひご一読のうえ、忌憚なきご意見をお寄せくださいますようお願い申し上げます。

R・C = 資源循環事業

R・C=資源循環事業は、民間最大級の都市型廃棄物処理施設「シンシア品川R・Cセンター」と「シンシア横浜R・Cセンター」を拠点に、一般廃棄物から産業廃棄物まで幅広く処理しています。両センターで1日最大502tの焼却処理が可能で、24時間365日受け入れ対応しています。1999年の操業当初から資源循環を意識したマテリアルリサイクルとサーマルリサイクルを実施し、資源の再利用とエネルギーの有効活用を推進しています。



焼却処理能力

502t/日



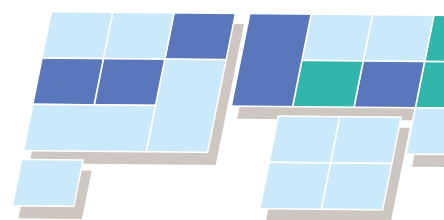
収集運

32都

- 産業廃棄物/特別管理産業廃棄物 収集
- 産業廃棄物 収集運搬業許可 7道府県
- 特別管理産業廃棄物 収集運搬業許可

リサイクル事業

リサイクル事業は、「シンシア品川リサイクルセンター」を拠点に全国へネットワークを展開して、情報通信機器を中心に増え続ける不用品や廃棄物をリサイクルしています。不用品から金属類や再生利用可能なものを最大限回収し、金属素材メーカーに売却（マテリアルリサイクル）しています。売却できないものは、シンシア品川R・Cセンターにて適正処理と再資源化を行っています。



車両運用部

当社の車両部門は、廃棄物の収集運搬を専門に行っています。安全性と法令遵守を最優先にし、日々の業務に励んでいます。全車両に危険運転検知機能付きのドライブレコーダーや後方確認支援警報装置を装着しており、



事業概要



廃棄物処分実績
(2024年度)

99,917t/年

2024年4月～12月

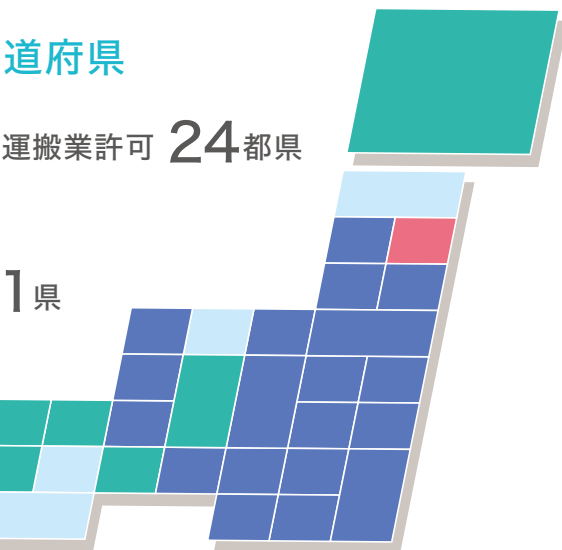


搬許可

道府県

運搬業許可 24都県

1県



一部車両には車載計量器も装着し、過積載防止に努めております。廃棄物の引き取り時には、廃棄物処理法や道路交通法などの関連法令を遵守し、廃棄物の安全かつ適切な管理を実施しています。



環境整備／ビルメンテナンス事業

清掃業務を中心に、職場環境の整備を行うサービスを展開しています。不用品や廃棄物の回収、リサイクル、そして専門知識を活かしたウェイストマネジメント(廃棄物管理)も実施しており、清掃・営繕からリサイクル、廃棄物処理まで、一社で完結できる総合的なサービスを提供しています。スタッフは環境負荷の低減を意識し、環境に優しい用具を使用して作業を行います。また、情報セキュリティに関しても万全の管理体制を確立しています。



コンサルティング事業

コンサルティング事業では、廃棄物管理だけでなく、リサイクル率向上を目指した戦略的な提案を行っています。全国規模のネットワークを活かし、オフィスや工場などの環境全般に関するコンサルティングサービスをワンストップで提供します。現状の廃棄物処理のプロセスを分析し、最適なリサイクル手法や廃棄物削減策を策定。これにより、効率的なリサイクルプロセスの導入を支援し、企業の環境負荷の軽減と持続可能な運営を実現します。

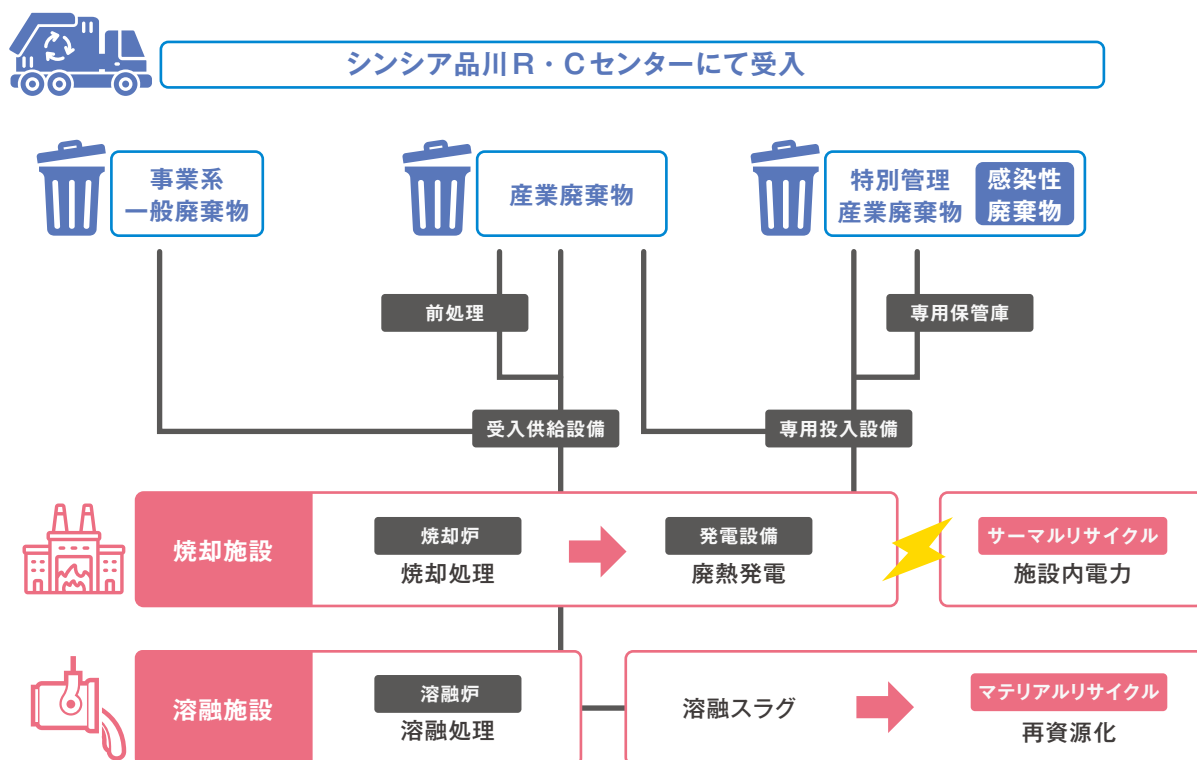


シンシア品川R・Cセンターは、東京都品川区に位置しています。ここでは、事業系一般廃棄物、産業廃棄物、特別管理産業廃棄物の焼却・溶融処理を行っています。溶融炉では、焼却後の灰（焼却灰）を高温で溶かし、溶融スラグにします。溶融スラグは土木資材としてマテリアルリサイクルが可能であり、これまで埋立処分されていた焼却灰を有効活用しています。

このマテリアルリサイクルによって最終処分を完了させることができます。廃棄物処理 manifests におけるE票を即日返却可能で、最終処分プロセスを省略することができます。排出事業者様にとっては複雑な manifests の手続きが簡略化され、廃棄物処理のスピードも向上します。

さらに、焼却廃熱を利用した発電を行い（サーマルリサイクル）、施設内の電力として有効に活用しています。私たちは、効率的で持続可能な廃棄物処理を通じて、地域社会と環境保護に貢献しています。

シンシア品川R・Cセンター 処理工程



受入可能な廃棄物の種類

事業系一般廃棄物

普通ごみ

産業廃棄物

燃えがら、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、紙くず、木くず、動植物性残さ、金属くず、ガラス・コンクリート及び陶磁器くず、ばいじん、政令13号指定廃棄物、動物系固形不要物

特別管理産業廃棄物

廃油、廃酸、廃アルカリ、特定有害産業廃棄物、感染性産業廃棄物

処理能力

焼却

〈一般廃棄物、特別管理産業廃棄物〉

130t/24h (65t/24h×2炉)

〈産業廃棄物〉

142t/24h (71t/24h×2炉)

溶融

50t/24h (25t/24h×2炉)

R・Cセンター



シンシア品川R・Cセンター 排ガス測定数値

設備	測定項目	単位	基準	測定結果(2024年度)					
				4月	6月	8月	9月	10月	12月
焼却1号炉	ばいじん*1	g/m ³	0.05	0.001未満	0.001未満	0.001未満	—	0.001未満	0.001未満
	硫黄酸化物	ppm	20	0.4未満	0.3未満	0.3未満	—	0.4未満	0.4未満
	窒素酸化物	ppm	70	36	28	32	—	32	35
	塩化水素	ppm	20	2	1	1未満	—	1未満	3
	ダイオキシン類	ng-TEQ/m ³	1	0.081	—	—	—	—	—
焼却2号炉	ばいじん*1	g/m ³	0.05	0.001未満	0.001未満	0.001未満	—	0.001未満	0.001未満
	硫黄酸化物	ppm	20	0.3未満	0.4未満	0.4未満	—	0.4未満	0.4未満
	窒素酸化物	ppm	70	37	36	36	—	34	34
	塩化水素	ppm	20	1未満	2	2	—	2未満	2
	ダイオキシン類	ng-TEQ/m ³	1	0.00072	—	—	—	—	—
熔融1号炉	ばいじん*1	g/m ³	0.05	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	—	0.001未満
	硫黄酸化物	ppm	20	0.4未満	0.4未満	0.4未満	0.4未満	—	0.4未満
	窒素酸化物	ppm	70	18	19	20	26	—	19
	塩化水素	ppm	20	2未満	2	2未満	2	—	2未満
	ダイオキシン類	ng-TEQ/m ³	1	0.015	—	—	—	—	—
熔融2号炉	ばいじん*1	g/m ³	0.05	—	—	—	—	—	—
	硫黄酸化物	ppm	20	—	—	—	—	—	—
	窒素酸化物	ppm	70	—	—	—	—	—	—
	塩化水素	ppm	20	—	—	—	—	—	—
	ダイオキシン類	ng-TEQ/m ³	1	—	—	—	—	—	—

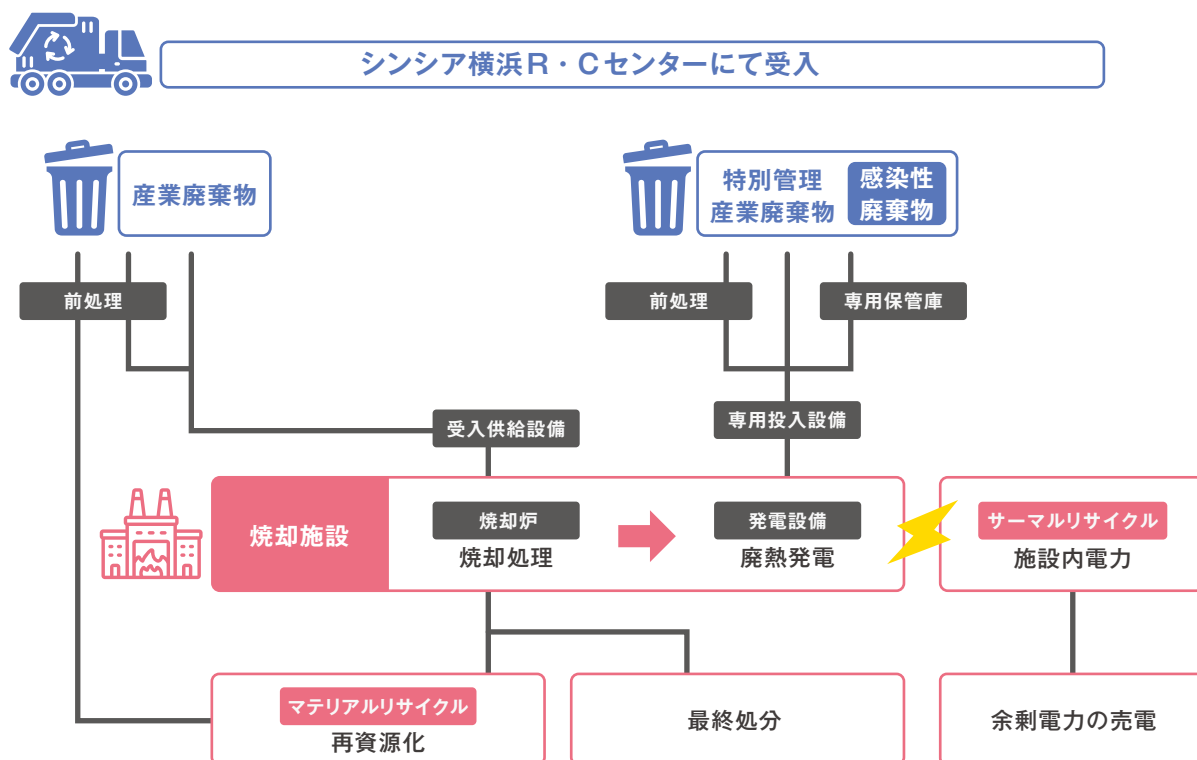
*1 標準状態(0℃、101.32kPa)を示す。

測定月：サンプリング月，未満：測定限界未満の数値，—：測定なし

横浜市金沢区に位置するシンシア横浜R・Cセンターは、首都圏最大規模の焼却施設として、2009年7月に操業を開始しました。24時間体制で廃棄物の受け入れが可能で、1日最大372tの産業廃棄物及び特別管理産業廃棄物を処理することができます。廃棄物の適正処理はもちろん、スプレー缶の安全な処理のほか、機密文書や感染性廃棄物なども安全にかつ確実に処理しています。

また焼却による廃熱を利用して発電しており、施設内で有効活用し、余剰電力を売却しています。廃棄物発電によって、温室効果ガス（GHG）の排出量削減にも貢献しています。当センターは開業以来無災害を継続し、2024年7月には操業15周年を迎えました。これからも長く施設を運営していけるように、定期的なメンテナンスや部品管理の効率化を図っています。

シンシア横浜R・Cセンター 処理工程



受入可能な廃棄物の種類

産業廃棄物

燃えがら、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残さ、ゴムくず、金属くず、ガラス・コンクリート及び陶磁器くず、ばいじん、動物系固形不要物

特別管理産業廃棄物

廃油（揮発油類、灯油類及び軽油類に限り、特定有害産業廃棄物であるものを除く）、感染性産業廃棄物

処理能力

焼却

372t/24h(186t/24h×2炉)

破碎

80t/9h、9.6t/24h(4.8t/24h×2基)

切断

11t/9h

分離

22.16t/9h



シンシア横浜R・Cセンター 排ガス測定数値

設備	測定項目	単位	基準	測定結果(2024年度)				
				4月	6月	8月	10月	12月
焼却1号炉	ばいじん*1	g/m ³	0.02	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満
	硫酸酸化物	ppm	20	0.6	0.5未満	0.5未満	0.5未満	0.5
	窒素酸化物	ppm	45	25	27	25	25	20
	塩化水素	ppm	20	6	3	10	6	4
	ダイオキシン類	ng-TEQ/m ³	0.1	—	0.000071	—	0.0032	—
焼却2号炉	ばいじん*1	g/m ³	0.02	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満
	硫酸酸化物	ppm	20	1.2	2.3	0.5未満	0.5	1
	窒素酸化物	ppm	45	21	24	18	24	23
	塩化水素	ppm	20	10	5	11	5	5
	ダイオキシン類	ng-TEQ/m ³	0.1	—	0.00000024	—	0.00071	—

*1 標準状態(0℃、101.32kPa)を示す。

測定月：サンプリング月，未満：測定限界未満の数値，—：測定なし



廃棄物を焼却する際に発生する硫酸酸化物や窒素酸化物、塩化水素等の有害ガスは、排ガス処理設備にてクリーンなガスに処理した後に大気に放出しています。排ガス処理が適切に行われているか定期的に測定(分析業者に委託)しています。測定結果については基準値を下回っていることを確認しています。



当社リサイクルセンターの原点は、江戸時代のくず屋の精神にあります。当時、くず屋は江戸中からゴミを集め、一切無駄にせず再利用していました。私たちはここ品川で、搬入された不用品や廃棄物を丁寧に解体し、プロの判断で選別します。その後、破砕機による破砕と大型プレス機による圧縮を行い、金属素材メーカー等に売却し、マテリアルリサイクルを実践しています。2024年には切断機を導入し、より効率的な中間処理ができるようになりました。

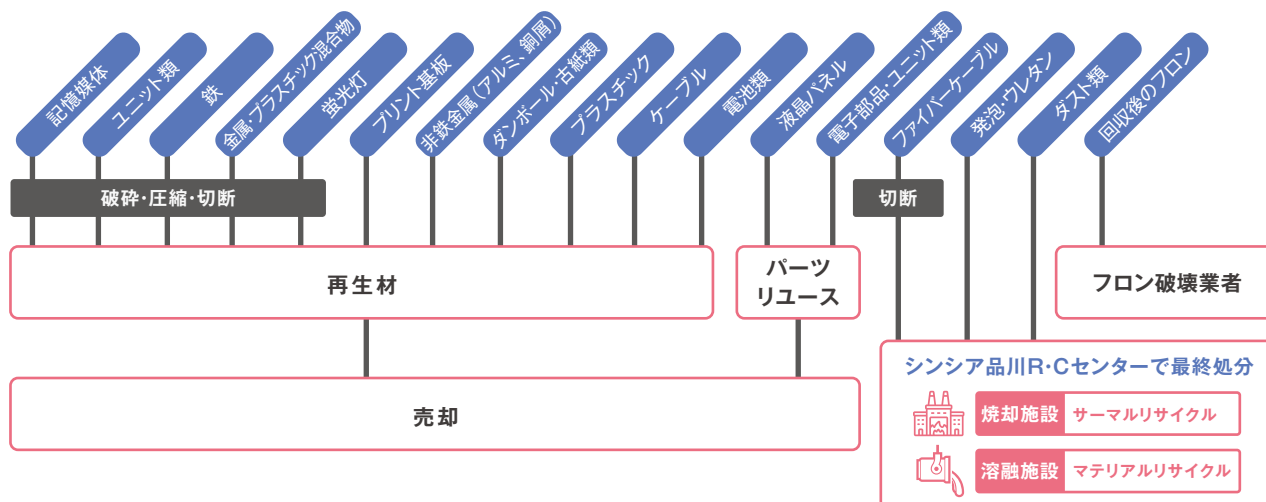
シンシア品川リサイクルセンター 処理工程



シンシア品川リサイクルセンターにて受入



解体・選別



受入可能な廃棄物の種類

産業廃棄物

廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず(廃蛍光灯を含む)

処理能力

破砕 4.8t/8h	破砕(廃蛍光灯) 16,000本/8h
圧縮 42.2t/8h	切断 13.8t/8h



当社は事業活動に伴う環境負荷を把握し、廃棄物の適正な処理はもちろんのこと、省エネルギー、廃棄物のリサイクル等、環境負荷の軽減につながる取り組みを継続して実施しています。

一般廃棄物受入量

5,021t

産業廃棄物受入量

17,643t

特管廃棄物受入量

8,994t

電力消費量: 5,729MWh

灯油消費量: 484kL



INPUT

産業廃棄物受入量

63,726t

特管廃棄物受入量

4,512t

電力消費量: 12,624MWh

都市ガス消費量: 83,368m³

シンシア品川事業所



品川R・Cセンター



品川リサイクルセンター

シンシア横浜事業所



横浜R・Cセンター

GHG 排出量

30,369t-CO₂e

廃棄物の搬出量

ばいじん

2,550t

廃蛍光ランプ破砕物

8t

安定型混合廃棄物

112t

有価物の売却量

溶融スラグ

1,658t

金属

1,709t

古紙

75t

プラスチック

194t

OUTPUT



GHG 排出量

139,220t-CO₂e

廃棄物の搬出量

ばいじん

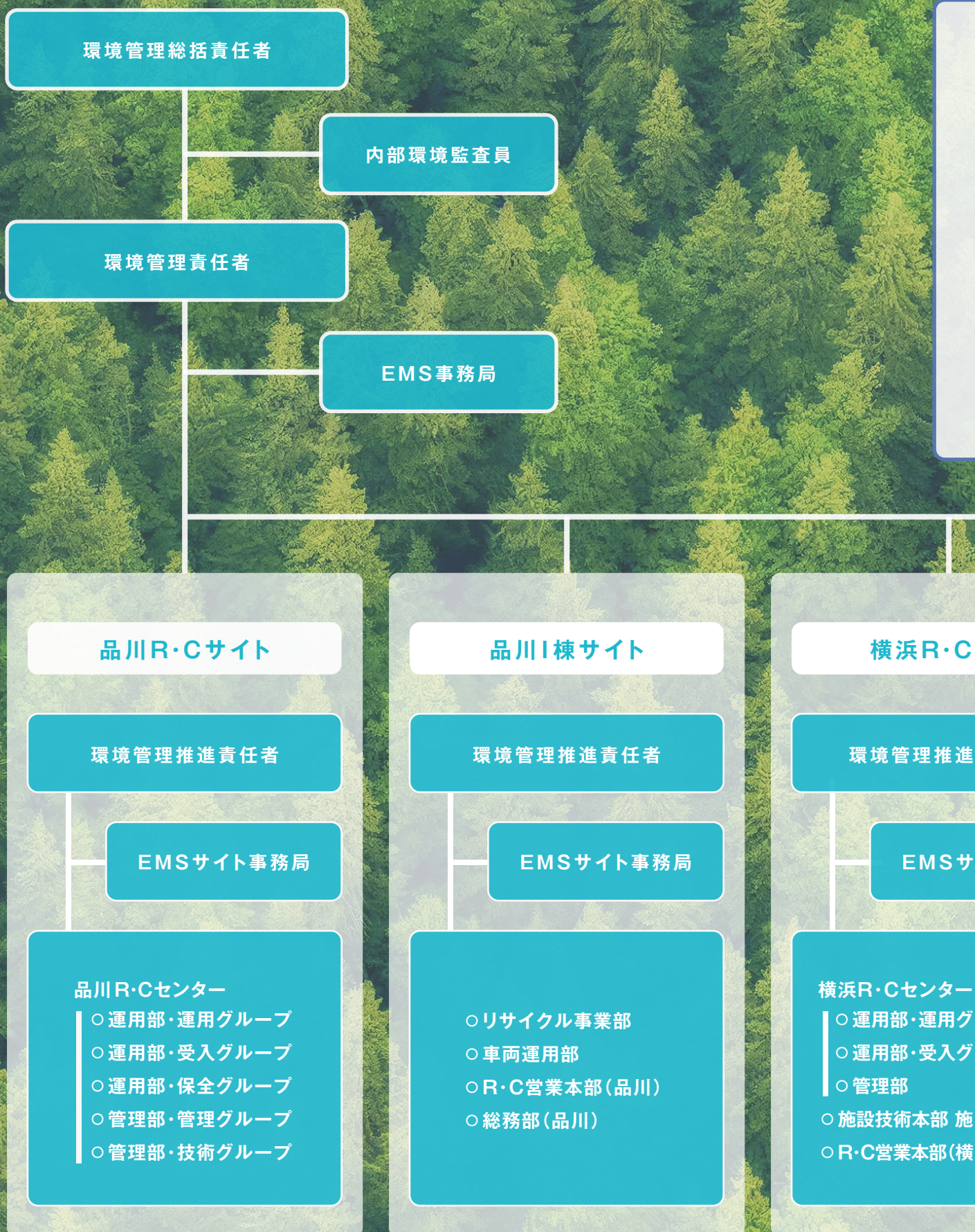
7,088t

燃えがら

5,251t

廃熱発電による売電量

22,251MWh



環境マネジメントシステム認証取得の経緯(1999年～)

1999年 11月	R・Cセンター(現シンシア 品川R・Cセンター) ISO14001認証取得(焼却・溶融処理施設として日本初)
2007年 9月	シンシア品川(現シンシア品川事業所)へ登録範囲拡大
2011年 11月	登録範囲にシンシア横浜事業所を追加
2012年 10月	登録範囲に本社を追加
2023年 9月	第8回更新審査

環境マネジメントシステム(EMS)の推進体制と実績

当社の環境マネジメントシステムでは、トップマネジメントである環境管理総括責任者の下、事業内容や拠点を考慮して分けられた4つのEMSサイトが中心となって活動しています。環境管理責任者は、これら4つのサイトを統括し、EMS活動を推進しています。各サイトでは環境管理推進責任者が

指揮して、部門ごとに環境負荷の低減を目指した活動目標、教育、訓練等を計画・実施しています。

また、EMSの確実かつ効率的な推進のため、部門間の相互監査(内部環境監査)を実施しています。これにより、ISO 14001の要求事項への適合性及び有効性を確認し、取り組みに対する評価や改善提案を行っています。2024年度の内部環境監査では、環境パフォーマンス向上に寄与する改善事項を6件挙げることができました。監査員の教育にも力を入れ、外部セミナーを受講することで、内部環境監査員の力量向上や新たな監査員の養成を進めています。

さらに、外部認証機関による定期維持審査(年1回)および更新審査(3年に1回)を受審しています。2024年度には、本社・品川事業所・横浜事業所が第8-1回更新審査を受審し、改善事項2件について指摘を受けました。

サイト

責任者

イト事務局

ループ ループ

設管理部 (浜)

本社サイト

環境管理推進責任者

EMSサイト事務局

○本社

ES事業部

総務部(本社)

経理・財務部

人事部

法務部

情報システム部

環境ソリューション本部



外部審査員によるリサイクル事業部の審査



各サイトでは、それぞれ環境負荷低減のための活動目標を定め、達成に向けて取り組んでいます。

品川R・Cサイト

活動目標	不具合物の搬入の抑制	設備の安定的な運用のための提案活動
担当部門	運用G / 受入G / 技術G	運用G / 受入G / 保全G
2024年度* 目標	展開検査又は燃焼試験：年間126件以上	要改善となった提案件数の70%を改善実施
2024年度* 実績	年間129件  達成	74%を改善  達成
2025年度 目標	展開検査又は燃焼試験：年間144件以上	要改善となった提案件数の70%を改善実施
SDGsとの関連	 11 住み続けられるまちづくりを	 9 産業と技術革新の基盤をつくろう  12 つくる責任 つかう責任

本社サイト

活動目標	消耗品の使用量低減	業務見直し、効率化による残業時間の抑制
担当部門	本社	本社
2024年度* 目標	対象5拠点における消耗品使用量を低減	本社勤務者の年間残業時間： 2019年度(コロナ禍前)実績の70%以下
2024年度* 実績	5拠点全て低減目標を達成  達成	2019年度実績比48%  達成
2025年度 目標	対象5拠点における消耗品使用量を低減	コピー用紙と電気の使用量削減とCO ₂ 削減量可視化 目標値：①コピー用紙使用数：前年比3%減 ②電気使用量：前年比2%減
SDGsとの関連	 12 つくる責任 つかう責任	 8 働きがいも経済成長も

*各数値は9か月分(2024年4月～12月)の目標および実績です。

動目標と実績

品川I棟サイト

パーツリユース品の回収

リサイクル事業部

メモリ回収量: 目標回収量以上
CPU回収量: 目標回収量以上

メモリ回収量: 達成率125%
CPU回収量: 達成率147%



ICロールにおける
ICとプラの分離・回収
年間目標: 目標回収量以上



エコドライブの推進

車両運用部

ドライブレコーダーによる危険運転
(急ブレーキ等3項目)の検知件数:
月間10件以下の車両が6台以上

月間10.9台(年間平均)



ドライブレコーダーによる危険運転
(急ブレーキ等3項目)の検知件数:
月間10件以下の車両が7台以上



リサイクルレベル向上案件の獲得

R・C営業本部

リサイクルレベル向上案件受注数:
前年度実績比90%以上

前年度実績比144%



リサイクルレベル向上案件受注数:
前年度実績比90%以上



横浜R・Cサイト

排ガス処理で使用する粉体薬品の削減

運用G

粉体薬品の使用量:
4,404.2kg/日・炉 以下

3,952.7kg/日・炉



粉体薬品の使用量:
4,404.2kg/日・炉 以下



飛灰削減のための搬入廃棄物の 性状確認及び是正対応

管理部

性状検査: 250件以上
展開検査: 23件以上

性状検査: 278件
展開検査: 36件



性状検査: 340件以上
展開検査: 32件以上



電力量の把握と 空調設備の省エネ活動

施設技術本部

毎月の使用電力量の把握
空調機の計画通りの更新

計画通り達成

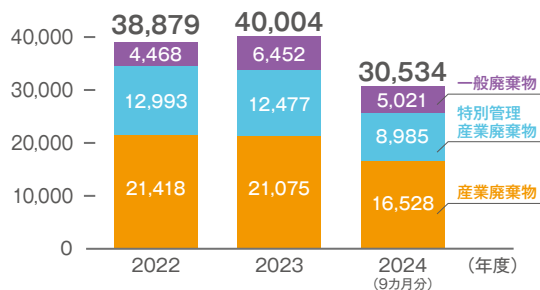
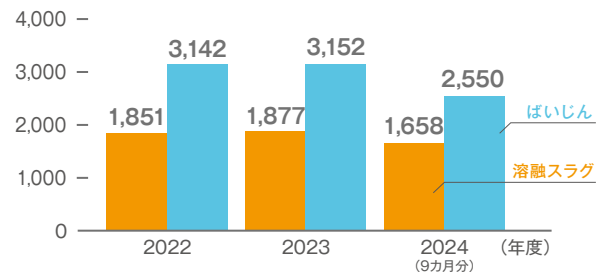


毎月の使用電力量の把握
空調機の計画通りの更新





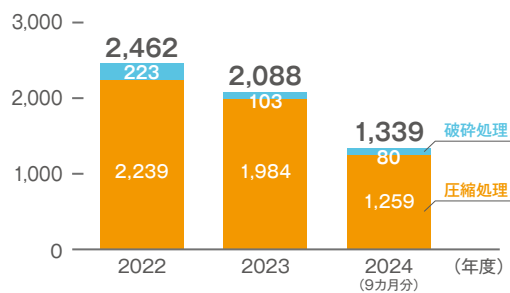
廃棄物処分量 (t)

溶融スラグ及び
ばいじん搬出量 (t)

シンシア品川R・Cセンター



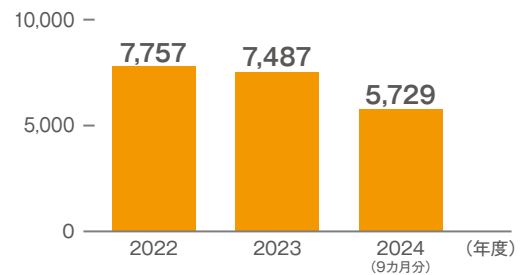
廃棄物処分量 (t)



シンシア品川リサイクルセンター



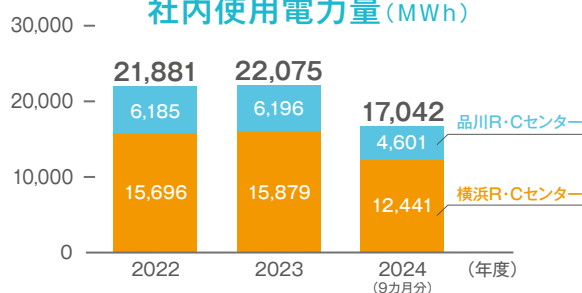
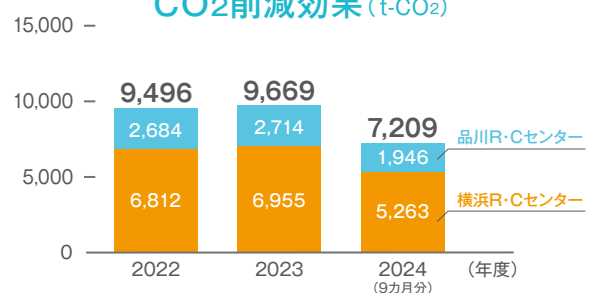
電力消費量 (MWh)



シンシア品川事業所全体

廃熱発電による二酸化炭素排出量削減貢献

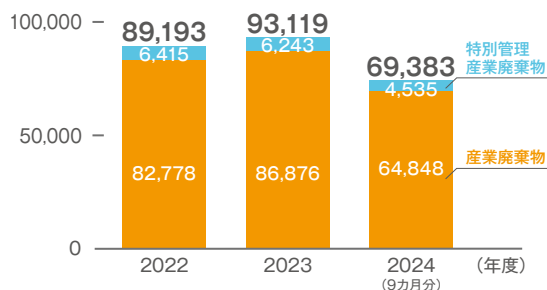
当社では廃棄物の焼却時に発生する熱を利用して発電しています(サーマルリサイクル)。発生した電力は社内で利用するとともに、一部を電力会社に売却しています。2024年度には、品川R・Cセンターと横浜R・Cセンターで合計17,042MWhの電力を自家利用しました。もしこの電力を電力会社から購入していた場合、約7,209tの二酸化炭素が排出される計算になります。両センターの稼働以来、サーマルリサイクルを通じて間接的に二酸化炭素の排出量削減に貢献し続けています。

自家発電のうち
社内使用電力量 (MWh)CO₂削減効果 (t-CO₂)

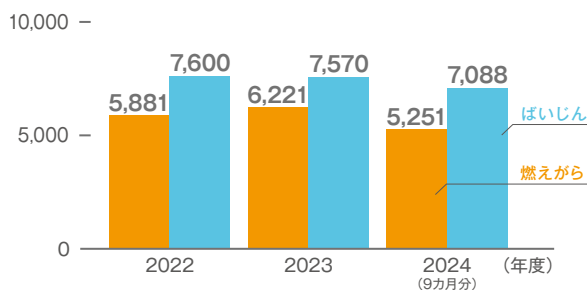
パフォーマンス指標



廃棄物処分量 (t)



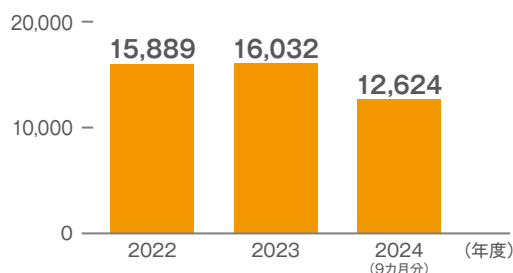
燃えがら及び
ばいじん搬出量 (t)



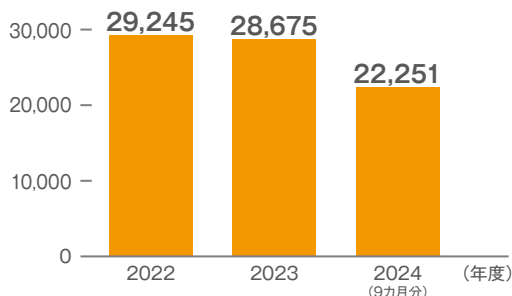
シンシア横浜R・Cセンター



電力消費量 (MWh)



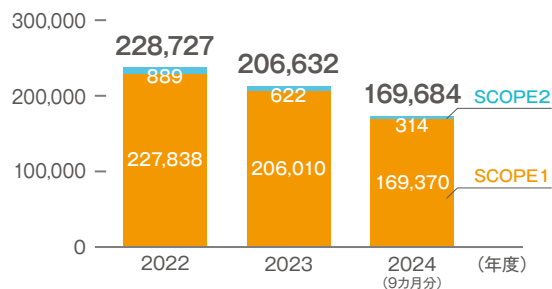
売電量 (MWh)



シンシア横浜R・Cセンター



GHG排出量* (t-CO₂e)



全社

*地区センターを含む全社でのGHG排出量 (t-CO₂e)

GHG排出量削減に向けた当社の取り組み

廃棄物の焼却を主たる事業とする当社にとって、温室効果ガス (GHG) の排出量削減には構造的な制約がありますが、可能な限りの取り組みを積極的に推進しています。

左ページに記載のとおり、当社は焼却廃熱を利用した発電により排出削減に貢献しています。発電設備については計画的かつ効率的なメンテナンスを実施して、外部からの電力購入を最小限に抑えています。購入する電力についても非化石証書付き電力 (再生可能エネルギー由来と見なせる電力) へと切り替え、実質的な排出削減を図っています。

また、フォークリフトのEV化を段階的に進めているほか、2024年度においては収集運搬車等の稼働に伴って排出された179t-CO₂eのGHGのうち、136t-CO₂e分についてJ-クレジットを活用したカーボン・オフセットを実施しました。これは、お客様の廃棄物を当社へ運搬する際に発生するGHG排出量のうち約76%を相殺したことになり、お客様のSCOPE3 (カテゴリ5: 事業から出る廃棄物の収集運搬分) の一部をオフセットしたことと同等です。

今後も、限られた条件の中でも創意工夫を重ね、現実的かつ継続的なGHG排出削減に取り組んでまいります。

資格および受講講習の名称	人数	資格および受講講習の名称	人数
産業廃棄物焼却施設技術管理士	33名	環境計量士(濃度関係)	1名
ごみ処理施設技術管理士	17名	公害防止管理者(大気関係)	9名
最終処分場技術管理士	4名	公害防止管理者(水質関係)	5名
破砕・リサイクル施設技術管理士	10名	公害防止管理者(騒音)	3名
特別管理産業廃棄物管理責任者	20名	公害防止管理者(振動)	1名
産業廃棄物(特別管理産業廃棄物)処分業講習修了者	45名	公害防止管理者(ダイオキシン類)	2名
産業廃棄物(特別管理産業廃棄物)収集運搬講習修了者	34名	東京都公害防止管理者	7名
冷媒回収技術者	4名	衛生管理者	14名
エネルギー管理士	3名	危険物取扱者 甲種	4名
電気主任技術者 2種	1名	危険物取扱者 乙種	80名
電気主任技術者 3種	3名	消防設備士	8名
電気工事士	20名	高圧ガス製造保安責任者	5名
ボイラー・タービン主任技術者	21名	建築物環境衛生管理技術者	2名
特級ボイラー技士	2名	ビルクリーニング技能士	3名
一級、二級ボイラー技士	63名	PCB収集運搬作業従事者講習修了者	9名
ボイラー整備士	13名	解体工事施工技士	3名
クレーン運転業務特別教育修了者	93名	一級土木施工管理技士	1名
酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者技能講習修了者	76名	一級管工事施工管理技士	1名
特定化学物質作業主任者講習修了者	48名	技術士(衛生工学部門)	1名
有機溶剤作業主任者技能講習修了者	42名	環境カウンセラー(事業者部門)	2名

2025年7月現在



環境負荷低減のための確かな技術の確証として、資格の取得や外部講習会への参加を積極的に行っています。講習会や、資格取得時に得た知識と技術は、日々の業務に活かされ、廃棄物の適正処理と環境負荷低減に役立っています。

シンシア品川事業所、シンシア横浜事業所では、緊急事態を想定した対応訓練を定期的に行っています。



バルブ操作箇所の確認



備品の確認

廃油水和物タンク・廃アルカリタンク漏洩対応訓練（品川R・Cセンター）

品川R・Cセンターでは、お客様から受け入れた廃油や廃アルカリを一時的に保管するタンクや配管からの漏洩を想定し、毎年対応訓練を実施しています。2024年度も漏洩発見から中央制御室への通報、漏洩拡大の防止措置、漏洩物の回収、漏洩箇所の復旧まで、手順書に沿って訓練を行いました。関係備品や装備の確認を行い、マニュアルの見直しや改善点についても議論しました。



危険物の混入防止と安全な廃棄物処理の徹底

近年、廃棄物中に混入したリチウムイオン電池などの危険物による火災事故が全国的に増加しています。安全な処理のためには、こうしたリスクのある物品を事前に排除することが重要です。当社では、リチウム電池をはじめとする電池類や、ガスボンベ、ペンキ、スプレー缶、ライターなど、引火・爆発の危険がある物品を「禁忌品」として定め、厳格に受け入れを制限しています。

新規のお客様には、こうした禁忌品の種類や廃棄時の注意点について事前にご説明し、搬出段階での混入防止を徹底していただいています。特にノートパソコンやモバイルバッテリーなど、内部に電池が含まれる機器については、分解が必要な場合もあり、誤って混入すると焼却設備の火災や爆発、周辺への影響など重大な事故につながるおそれがあります。

当社では、搬入時に展開検査を適宜実施し、契約内容と照らして受入基準に適合しているか、禁忌品が含まれていないかを確認しています。基準に適合しない廃棄物が確認された場合は、お客様にご連絡のうえ、一度返却し、再分別または梱包の見直しをお願いしております。

私たちは、事故やトラブルを未然に防ぎ、安全で適正な処理を通じて、周辺環境と従業員の安全確保に努めています。



モバイルバッテリー（上）とノートPC（下）の混入

従業員の環境意識向上を目的として、年2回「環境月間」を設定し、事業所周辺の清掃活動の他、他部門の業務内容を理解するためのイベントや勉強会を実施しています。2024年度は、年間で計10件実施しました。

	主催	活動名
6月	品川総務課	大井ふ頭緑道公園の清掃活動
	横浜総務課	通勤経路のごみ拾い活動
	本社（法務部）	当社のGHG排出量と炭素クレジットによる削減貢献（資料配布）
10月	品川総務課	京浜運河緑道公園内清掃活動
	リサイクル事業部	リサイクルセンターにある設備を知ろう
	車両運用部	過積載防止に取り組もう
	R・C営業本部	節電パトロール
12月	横浜総務課	通勤経路のごみ拾い活動
	品川運用G	ウェアラブルデバイスによる設備管理体験
	本社（総務部）	品川清掃工場見学会

体感で学ぶ過積載防止

車両運用部では、日ごろより過積載の防止に取り組んでおり、その一環として、ゲーム感覚で楽しめる企画を実施しました。参加者は古タイヤや段ボール箱などを実際に持ち上げ、その感覚から、同様の品が積載されたパレット全体の重量を予想しました。重さに対する感覚と実際の差を体験することで、日ごろの業務における安全配慮への意識づけとなることを期待しており、過積載のリスクへの理解を深める一助にもなりました。



古タイヤの重量を予想中

品川清掃工場見学会

本社総務部では、当社からほど近い東京二十三区清掃一部事務組合の品川清掃工場を訪問し、施設見学を実施しました。参加者は15名で、見学スペースの広さや清潔感に加え、処理工程をわかりやすく伝える展示やインパクトのある模型が印象的でした。また、説明担当の方の丁寧な対応や明快な解説には学ぶ点も多く、当社での見学対応を考えるうえで参考となる部分がありました。



展示資料を注視する参加者

ウェアラブルデバイスによる設備管理体験

R・C事業部では、焼却施設の点検作業のIoT化・効率化に取り組んでいます。品川R・Cセンターでは眼鏡型カメラを使い、現場映像を中央制御室へ共有したり、作業者の視界にマニュアルや図面を投影するテストを実施中です。イベントでは、普段事務作業が中心の従業員が、遠隔サポートを受けながら配電盤のスイッチ操作を体験しました。現場のIoT化を通じて、点検作業の効率化や仕事の進め方が今後さらに変わっていくことが期待されます。



カメラに映る図面を見ながら配電盤のスイッチを確認



金沢シーサイドタウン連合自治会の皆様による見学



品川R・Cセンターの立入検査(東京都 産業廃棄物対策課殿)

当社では、ステークホルダーの皆様に対し、施設やサービスへの理解を深めていただくことを目的に、施設見学や現地確認を随時受け入れています。

2024年度は、取引先様を中心に67社の皆様により現地確認にご来場いただき、焼却設備や処理工程の実際をご確認いただきました。また、排出事業者様や関係者による施設見学も延べ574名にのぼり、施設模型によるプロセス説明のほか、制御室での運転管理、焼却炉での処理状況、パソコンなどの解体現場もご覧いただいています。こうした対応に加え、GHG排出量を含む環境データの開示や、作業・設備に関してアンケートなど14件のお問い合わせがあり回答しております。

地域との関わりとしては、金沢シーサイドタウン連合自治会の皆様に、例年横浜R・Cセンターの施設をご見学いただいています。また、行政機関からは定期的に立入検査を受けており、適正な施設の維持管理ができるようご指導いただいています。今後も、各ステークホルダーとのやり取りを通じて、理解と情報共有の機会を積み重ねていきたいと考えています。



通勤経路のごみ拾い(横浜事業所)



京浜運河緑道公園内清掃活動(品川事業所)

ごみ拾い活動

シンシア品川事業所では、八潮自治連合会様のご協力のもと、大井ふ頭緑道公園や京浜運河緑道公園のごみ拾い活動を行っています。シンシア横浜事業所では、並木北駅及び並木中央駅から横浜事業所まで従業員の通勤経路のごみ拾い活動を行っています。

ごみ拾い活動は毎年両サイトで続けてきており、回収するごみの量は年々減ってきているようです。近隣の環境美化はもとより、道路や公園内を通行する方々が気持ちよく利用できるように、これからも活動を続けてまいります。

